

会よりのお知らせ

○平成2年度幹事選挙投票のお願い

平成2年度日本光学会幹事の選挙を行ないますので、本号綴込みの葉書で投票されるようお願いいたします。投票締切りは平成元年11月9日(木)必着です。18巻7, 8号で幹事立候補者を募集いたしました。立候補された方はありませんでした。綴込みの葉書には下記幹事会からの推薦候補者の氏名が印刷されています。もちろんそれ以外の方で適任と思われる方に投票されても結構です。推薦候補者のうち新幹事として適任だと思われる方に○をつけ、○をつけなかった数だけ、下欄に適任と思われる方の氏名(所属)をご記入ください。ただし、下記の留任幹事以外の方にしてください。投票は無記名でお願いします。

●幹事会からの推薦候補者

日本光学会役員選挙その他に関する内規(本号594ページ記載)により、幹事会では下記の29名の方々を平成2年度新幹事候補者として推薦します。

池田 光男(東工大)	魚住 純(北大)
永寿 伴章(機技研)	大沼 一彦(千葉大)
岡本 隆之(理化学研)	小野 雄三(日本電気)
草川 徹(東海大)	玄間 隆志(トプコン)
小団扇 平(リコー)	近藤 高志(東大)
斎田 真也(製科研)	桜井 捷海(東大)
志村 努(東大)	鈴木 憲章(日写機工業会)
谷田 純(阪大)	坪川 信(NTT)
鶴田 匡夫(ニコン)	中枝 武弘(旭光学)
中塚 宏樹(筑波大)	野沢 信弘(オハラ)
日江井栄二郎(国立天文台)	福島 省(ミノルタ)
船渡 好人(島津製作所)	本田 捷夫(東工大)
松岡 浩(富士フイルム)	松坂 茂(国土地理院)
松本 俊郎(大阪府立高専)	矢島 弘義(電総研)
安田 賢司(富士写真光機)	

●留任の幹事

日本光学会規則(「光学」第11巻第4号(1982年8月)424ページおよび第13巻第2号(1984年4月)176ページ(一部改正)記載)により、下記の27名の方々は平成元年度は留任となります。

會田 田人(NHK)	青木 貞雄(筑波大)
石井 行広(職業訓練大)	今給黎哲郎(国土地理院)
内田直也(NTT)	河田 聡(阪大)

川畑 州一(東工芸大)	菊池 和朗(東大)
桐木 俊彦(コニカ)	久保 高啓(三菱電機)
黒沢 富蔵(計量研)	桑山 哲郎(キヤノン)
河野 嗣男(都立科技大)	越 章夫(ユニオン光学)
渋谷 真人(ニコン)	庄野 裕夫(東芝)
高島 幸史(東北大)	高橋 信明(防衛大)
武田 光夫(電通大)	立野 公男(日立)
谷川 英夫(大工試)	中島 啓幾(富士通)
中嶋 康夫(松下電器)	堀川 嘉明(オリンパス)
南 正名(東芝)	峯本 工(神戸大)
吉田 稔(岐阜大)	

○平成元年度光学論文賞応募論文募集

平成元年度光学論文賞の応募論文を募集いたします。応募締切りは平成元年10月31日(火)、応募および不明な点の照会先は「光学」編集委員長、本田捷夫(〒227 横浜市緑区長津田町4259 東京工業大学像情報工学研究施設、電話045-922-1111 内線2090)です。なお、本会として調査する雑誌は、「光学」、「応用物理」、「Jpn. J. Appl. Phys. Part 1」、「Jpn. J. Appl. Phys. Part 2 (Letters)」の4誌です。

○研究グループ募集

平成2年度より設立を希望する研究グループを募集いたします。13巻第4号掲載の研究グループ内規をご覧の上、同内規第2項にしたがってお申し出ください。応募締切りは平成元年11月30日(木)、応募および不明な点の照会先は庶務幹事、内川恵二(〒227 横浜市緑区長津田町4259 東京工業大学大学院総合理工学研究科、電話045-922-1111 内線2521)です。

○平成元年度第2回常任幹事会

平成元年9月1日(金)に東京、虎ノ門第9森ビルにおいて開催され、庶務、会計、「光学」編集、講演会・講習会の経過などについて報告が行なわれました。また、来年度幹事推薦候補者が決定されました。

○第6回色彩工学コンファレンスのご案内

平成元年11月15日(水)~16日(木)に東京、お茶の水・神田駿河台の全電通ホールにおいて開催予定の第6回色彩工学コンファレンス(第35回光学四学会連合講演会)のプログラムが決定しました。詳細については本号巻末綴込みの案内をご覧ください。なお、参加ご希望の方はお早めにお申込みください。

○ 第20回画像工学コンファレンスのご案内

平成元年12月12日(火)~14日(木)に東京、芝公園のABC会館ホールにおいて開催予定の第20回画像工学コンファレンスのプログラムが決定しました。詳細については本号巻末綴込みの案内をご覧ください。なお、参加ご希望の方はお早めにお申込みください。

○ 微小光学研究グループよりのお知らせ

● 第33回微小光学研究会の予定

日時：平成元年10月12日(木) 13:00~17:30

場所：東京大学生産技術研究所第1会議室

東京都港区六本木 7-22-1

電話 03-402-6231

- 演題：1. 国際会議報告 (MOC/GRIN '89, IOOC '89, ECOC '89, ISOM '89 他)
2. 応用物理学会, 電子情報通信学会よりのトピックス

参加費：1,000円 (資料およびお茶代を含む)

参加申込：不要 (直接, 会場にお越しください)

問合せ先：〒151 東京都渋谷区代々木 1-35-5 万田ビル
光エレクトロニクスサロン内
微小光学研究グループ事務局 野口康彦
電話 03-320-0492

または

〒240 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常磐台 156
横浜国立大学工学部電子情報工学科
国分泰雄
電話 045-335-1451 内線 2368

○ 関連国際会議のご案内

● 1990年光コンピューティング国際会議 (OC '90)

日時：平成2年4月8日(日)~12日(木)

場所：神戸国際会議場

兵庫県神戸市中央区港島中町 6-9-1

主催：応用物理学会, 国際光学委員会 (ICO)

主要テーマ：① Analog or Digital Processors: systems and applications, ② Optoelectronic Computing: architectures, systems and algorithms, ③ Optical Parallel Logic and Symbolic Substitution, ④ Optical Parallel Digital Computers: massively parallel architectures, systems and algorithms for parallel processing, ⑤ Optical Neural

Computing and Associative Processors, ⑥ Hybrid Optical/Electronic Processors and Applications, ⑦ Photonic Switching for Optical Computing, ⑧ Optical Interconnections, ⑨ Spatial Light Modulators, ⑩ Optical and Optoelectronic Integrated Circuits, ⑪ Nonlinear Optical and Optoelectronic Phenomena, Materials and Devices, including MQW, ⑫ 2-D Array Devices for Optical Computing Systems, ⑬ Physical Capability and Limitations of Optical Computers, ⑭ Applications of Optical Computing

演題募集：一般講演として約70件を予定しており、口演発表とポスター発表を予定しております。発表をご希望の方はA4判の用紙に25 word の abstract を含めて2頁以内の summary を1989年11月10日(金)までにご提出ください。

採否通知：平成2年1月末日までにご通知いたします。

参加費：事前登録：一般 40,000円 学生 20,000円 (3月10日以前)

当日登録： 45,000円 25,000円

問合せ先：〒113 東京都文京区本郷 3-23-1

(財)日本学会事務センター内

OC '90 事務局

電話 03-817-5831 Fax 03-817-5836

○ 日本光学会共催講演会のご案内

● ノイゲバウアー博士追悼色彩再現理論 SPIE セミナー

日時：平成元年12月14日(木)~15日(金)

場所：私学会館

東京都千代田区九段北 4-2-25

主催：SPIE 日本支部

内容：講演 21件

詳細は本号綴込みのプログラムを参照。

参加費：加盟学会員 30,000円 (10月31日受付まで)
35,000円 (11月以降受付)

非会員 35,000円 (10月31日受付まで)
40,000円 (11月以降受付)

懇親会 3,000円

問合せ先：〒169 東京都新宿区高田馬場 1-34-12

(株)オー・ティ・オー・リサーチコーポレーション

SPIE 日本支部・事務局 小川

電話 03-208-7821

○ 新入会員

個人

○ 日本光学会協賛講演会のご案内

● 第4回レーザー顕微鏡研究会

日時：平成元年 10月 16日(月) 13:30~17:00

場所：東京工業大学百年記念館フェライト記念会議室

東京都目黒区大岡山 2-12-1

東急目蒲線、大井町線大岡山駅前

電話 03-726-1111

主催：レーザー顕微鏡研究会

演題：1. リアルタイム画像入力・処理を使ったカルシウム波の解析

高松哲郎(京都府医大)

2. フォトサーマル変位を利用した表面形状計測 伊藤賢一, 梅田倫弘(農工大)

3. 蛍光共焦点走査顕微鏡によるフォトレジスタの断面形状観察

木村茂治, 棟方忠輔(日立中研)

4. 合成法による反射型顕微鏡画像の焦点深度の増大

岡林正典, 大山永昭

本田捷夫(東工大)

5. 輪帯瞳励起系を用いた超深度高分解能レーザー走査蛍光顕微鏡について

河田 聡(阪大)

6. 国際学会報告

大出孝博(レーザーテック)

参加費：2,000円(論文集代を含む), 会員無料

問合せ先：〒140 東京都品川区西大井 1-6-3

(株)ニコン光学部開発課

大木裕史

電話 03-773-1111 内線 2311

会員番号	氏名	所属
A 2373	來住 直人	電通大・電子
2374	中山 昌春	東理大・理工
2375	鈴木 清三	リコー・画像研
2376	小団扇 平	リコー・画像研
2377	仁科喜一郎	リコー・画像研
2378	武山 芸英	藤井光学
2379	関谷 尊臣	千葉大・大学院
2380	川那辺純一	アロカ研
2381	西岡 公彦	オリンパス・光学技
2382	長谷川 晃	オリンパス・光学技
2383	石井敦次郎	オリンパス・光学技
2384	松崎 弘	オリンパス・光学技
2385	押切 稔	オリンパス・光学技
2386	白谷 文行	オリンパス・光学技
2387	永井 宏明	オリンパス・光学技
B 2015	柏木 直樹	キヤノン・システムエンジニアリングセンタ
2016	大出 孝博	レーザーテック・技
2017	高浦 淳	リコー・画像(事)
2018	立蔵 正男	NTT・伝送システム研
2019	高橋 尋之	日本航空電子・中研
2020	難波 孝夫	神戸大・理
2021	築地 光雄	小糸製作所・研
2022	田野辺博正	東工大・総理工
2023	中沢 正隆	NTT・伝送システム研
2024	渋谷 佳樹	沖電気・ 電子デバイス(事)
2025	松井 一郎	国立公害研究所
2026	大隅 太郎	島津製作所・ 第一科学計測(事)
2027	尾中 寛	富士通・研
2028	辻山文治郎	NTT・光エレ研
2029	井上 壮一	東芝・ULSI 研
2030	岩野 英明	セイコーエプソン・ 電子デバイス研
2031	小島 光喜	ダイキン工業・電子研
2032	大林 康二	広島大・総合科学
2033	辰野 恭一	東芝・総研
2034	長尾 康之	KDD・目黒研

特別会員

特別会員	139	日本電気(株)筑波技術支援課
	140	鳥羽商船高等専門学校
	141	セイコーエプソン(株)画像情報研究部

日本光学会（応用物理学会）役員選挙その他に関する内規

昭和34年9月19日施行
昭和47年7月21日一部改正

第1章 幹事選挙

- 第1条 毎年選出すべき幹事の数（幹事総数の約半分）は25名内外とし、（前期）幹事会がこれを定める。以下これを定員と称する。
- 第2条 幹事選挙に当って、日本光学会（応用物理学会）会員（以下会員と略称）は自ら立候補することができる。また会員ないその団体（幹事会を含む）は任意の会員を候補者として推薦することができる。但し、この場合は本人の承諾を要する。
- 第3条 幹事会は定員と同数の候補者を推薦するものとする。推薦候補者の約半数は学校、研究所側から、残りは会社側から各地方代表という意味をも考えた上で選出するものとする。この場合規則第6章第3および4条、本内規第9、10、11、12および17条の考慮を要する。
- 第4条 幹事会は毎年7月の（常任）幹事会において、推薦候補者を決定する。また会誌8月号で選挙を公告して、9月の（常任）幹事会までに、立候補者および他からの推薦候補者を募り、全立候補者および推薦候補者を公示した上、11月の（常任）幹事会までに選挙を実施する。
- 第5条 投票は無記名、全数連記投票とする。
- 第6条 公示された候補者以外の会員に対する投票も有効である。
- 第7条 当選者決定は11月の（常任）幹事会でおこなう。
- 第8条 新選出幹事の任期は、選挙実施の翌年の3月幹事会以降の2年間とする。但し、新幹事長および新常任幹事選出に対しては、次期幹事たることが確定すると同時に、選挙権を生ずる。選挙実施の翌年の3月幹事会に任期を満了すべき旧幹事は、新幹事長および新常任幹事選出に対しては選挙権を有しない。

第2章 幹事長および常任幹事選挙

- 第9条 常任幹事は庶務3名、会計2名、編集2名、事業担当若干名とし、その任期は選任の翌年の3月幹事会以降の2年間とする。常任幹事としての任期の半ばで、第8条による幹事としての任期が満了する者は、必ず次期幹事候補者として推薦するものとする。（落選の場合は常任幹事失格）
- 第10条 幹事長の任期に関しても第9条を準用する。
- 第11条 幹事長を2年連続してつとめた者は、次の2年間は常任幹事にしない。
- 第12条 常任幹事を2年連続してつとめた者は、次の2年間は常任幹事にしない。
- 第13条 幹事長交替の前年には12月の幹事会において、新幹事長を互選する。（第8条参照）
- 第14条 新常任幹事の互選は選挙実施の年の12月末日までにおこなう。この場合幹事長は候補者を推薦することができる。（第5、6条準用）
- 第15条 新常任幹事選挙の結果は旧庶務幹事が確認し、これを全幹事に報告する。
- 第16条 副幹事長をおく場合は、幹事間の互選による。（第5、6、14条準用）

第3章 前幹事長の処遇

- 第17条 幹事長をつとめた者は、前幹事長の肩書を付して、引続き幹事候補者に推薦するものとする。

第4章 改訂

- 第18条 幹事会は必要とみとめた場合、その議決によって本内規を改訂することができる。
- 付則 本内規は昭和57年9月6日より実施する。